

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	16-107	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Association between clinically recorded alcohol consumption and initial presentation of 12 cardiovascular diseases: population based cohort study using linked health records. 臨床的に記録された飲酒習慣と初発の循環器疾患リスクとの関連		
執筆者		
Bell S, Daskalopoulou M, Rapsomaniki E, George J, Britton A, Bobak M, et al.		
掲載誌		
BMJ. 2017 Mar 22;356:j909. doi: 10.1136/bmj.j909.		
キーワード	PMID	
中等度の飲酒、心大血管疾患、初発症状	28331015	
要 旨		
目的： 飲酒と循環器疾患との関係は複雑であり、結果は一致していない。本研究では、飲酒と循環器疾患との関連を詳細に検討するため、飲酒習慣を5つに分類し、心臓、脳血管、腹部、末梢血管疾患など12の循環器疾患との関連を検討した。		
方法： CALIBER (Cardiovascular research using Linked Bespoke studies and Electronic health Records)プログラムに1997年1月1日から2010年3月25日までに登録された30歳以上の1,937,360名を対象とした。飲酒習慣は診療記録より登録前5年間の情報を収集し、非飲酒、過去飲酒、機会飲酒、中等度飲酒、過度飲酒の5つのカテゴリーに分類した。循環器疾患は、安定/不安定狭心症、心筋梗塞(MI)、一過性脳虚血発作(TIA)、くも膜下出血、末梢動脈疾患(PAD)など12疾患の徴候的症状の少なくとも1つが最初に記録された情報を用い評価した。		
結果： 観察期間中、循環器疾患を初めて発症したのは114,859名であった。非飲酒は、中等度飲酒(研究時の英国ガイドラインによる)と比較し、不安定狭心症(ハザード比[HR] 1.33, 95%信頼区間[CI] 1.21-1.45)、MI(HR 1.32, 95%CI 1.24-1.41)、予期しない冠状動脈死(HR 1.56, 95%CI 1.76-1.38)、心臓麻痺(HR 1.24, 95%CI 1.38-1.11)、虚血性脳卒中(HR 1.12, 95%CI 1.24-1.01)、PAD(HR 1.22, 95%CI 1.32-1.13)および腹部大動脈瘤(HR 1.32, 95%CI 1.49-1.17)の発症リスクが高かった。過度飲酒(ガイドライン基準以上)は、予期しない冠状動脈死(HR 1.21, 95%CI 1.35-1.08)、心臓麻痺(HR 1.22, 95%CI 1.08-1.37)、心停止(HR 1.50, 95%CI 1.26-1.77)、TIA(HR 1.11, 95%CI 1.02-1.37)、虚血性脳卒中(HR 1.33, 95%CI 1.09-1.63)、脳内出血(HR 1.37, 95%CI 1.16-1.62)およびPAD(HR 1.35, 95%CI 1.23-1.48)のリスクは増加したが、MI(HR 0.88, 95%CI 0.79-1.00)、安定狭心症(HR 0.93, 95%CI 0.86-1.00)のリスクは低かった。		
結論： 飲酒レベルと初発の循環器疾患リスクとの関連には異質性があった。循環器疾患予防における飲酒の役割について、より細やかなアプローチ、ならびにさらなる研究が必要と考えられる。		